

林業通じ2国間で課題克服へ 日・オーストラリア委員会開催

日本とオーストラリアの2国間で将来の林業の課題について考える「日・オーストラリア委員会」のシンポジウム(外務省主催)は7月1日、あえりあ遠野で開催されました。「地域社会と経済の再生に向けた林業及び木材産業の重要性」をテーマに開催され、訪れた林業関係者など150人は、林業とその関連産業の可能性について理解を深めました。

シンポジウムでは、両国の専門家4人が現状や課題について情報交換したほか、その改善策などについて活発に意見を交換。林業と関連産業を発展させるために▽効率的なシステムの構築▽研究開発活動の活性化▽技術者の育成などが必要であることを確認し、今後も2国間の交流を継続し、協力し合うことを誓いました。筒井英徳委員長は

「林業の発展が地域社会や地域経済の再生に大きく寄与する。今後も2国間の連携を強め、互いに学び合いたい」と決意を新たにしました。

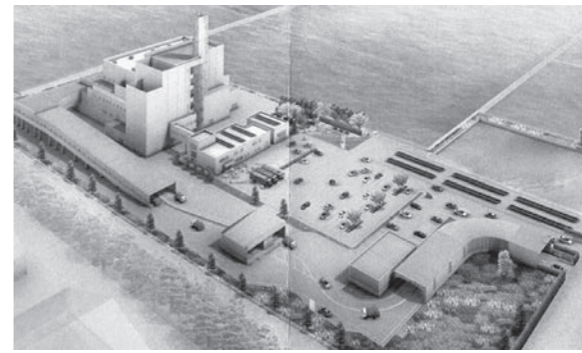


課題解決に向け意見を交換し合う両国の代表

近隣市町で効率的なごみ処理 中部広域焼却施設が着工へ

北上、花巻、遠野、西和賀の4市町で構成する岩手中部広域行政組合が整備する、「岩手中部広域クリーンセンター」(仮称)の安全祈願が7月3日、北上市和賀町の建設地で行われました。建設業者や関係市町の職員ら50人は工事の安全を願いました。同センターは各市町の焼却施設が共に老朽化していることから、共同で焼却施設を整

備しようとして平成14年に計画。敷地面積は4・2ヘクタール、焼却炉などを含む施設は地上7階、地下2階の構造で、2015年9月に完成予定です。総事業費は約135億円で、建設費は4市町で按分します。年間ごみ処理量は約5万6千トンで、運営費は約39億2千万円。可燃ごみは同センターまで運搬され、量に応じて各市町が負担します。



岩手中部広域クリーンセンター(仮称)の完成予想図

新たな地域活動専門員が着任 まちづくりなどをサポート

本市の地域振興に取り組む地域活動専門員として、林田麻美さん(29)が三重県員弁郡東員町出身が、7月16日に着任しました。林田さんは青年海外協力隊員として、今年3月までの2年間、アフリカのセネガルで環境教育に従事。帰国後の6月に、青年海外協力協会(JOCA)から本市での地域活動専門員の紹介があり、東北への興味もあつたこ

とから就任することになりました。7月17日に本田敏秋市長へ着任あいさつに訪れた林田さんは「遠野は自然が美しく、人も優しく過ごしやすい。遠野のことを早く覚え、地域の良さを引き出し遠野のまちづくりに努めたい」と抱負を述べ、本田市長は「世界での経験をまちづくりに生かしてほしい。またごみ減量にもしっ

かり取り組んでもらいたい」と期待を寄せました。林田さんは市民センターに拠点を置き、市内全域のまちづくり支援などに取り組む予定です。



遠野での活動に抱負を述べる林田さん

国際交流へ意識を高め合おう 研修生が附小児童らと交流

東南アジアなどからの海外研修生は7月2・3の両日、附馬牛小の児童との交流などを通じて日本の文化を学びました。復興支援の現場や日本の文化を学ぶJALの事業で、本市での開催は3年目。14カ国から訪れた23人は児童らに自国の紹介をしたり、折り紙やけん玉遊びをしたりして交流したほか、遠野ふるさと村では南部曲り家などにつ

いての説明を受け、日本の文化に理解を深めました。研修生のクマル・スリーヤ・プラカさん(インド)は「今後の国際交流は若者同士のつながりが重要。今日の出会ひも大切にしたい」と国際交流への意識を高め、伊藤星真君は「外国のスポーツや人口が知れて良かった。もっといろいろなことで交流したい」と興味を持った様子でした。



児童に自国の文化を説明する海外の研修生(奥)

たくさんさんの思い出ありがとう 遠野中学校旧校舎お別れ式

遠野中学校旧校舎のお別れ式は7月26日、現地で行われました。出席した在校生らは、長年親しまれてきた校舎に別れを告げました。

式では牧野和男遠野中学校長が「50年以上にわたり多くの生徒を育ててくれた校舎に感謝。旧校舎の思いは新校舎にもしっかりと受け継いでいく」と、鈴木凌生徒会長は「思い出が詰まった校舎との別れは寂しいが、思い出が消えることはない。今まで本当にありがとうございました」とそれぞれ感謝の言葉を述べました。最後は全卒業生を輩出してきた校舎に



旧校舎への感謝の言葉を述べる牧野校長

感謝しました。旧校舎は1959(昭和34)年、本市では初めての鉄筋コンクリート三階建てとして建築され、当時は新しい建築技術によって造られたことで話題を呼びました。平成22年度の中学校再編成計画時には、老朽化が進んでいることから新築することを決定。現在の校舎が平成25年3月に完成したことから取り壊されることとなりました。

解体前の7月22・26日、旧校舎は一般に開放され、自由見学会も行われました。訪れた卒業生らは友人と思い出を語るなど、それぞれの青春時代を振り返っていました。

遠野中旧校舎の簡易年表

- 1958(昭和33)年3月 校舎建築地鎮祭
- 1959(昭和34)年12月 本校舎工事完了
- 1961(昭和36)年3月 体育館落成
- 1962(昭和37)年3月 管理棟落成
- 1965(昭和37)年10月 記念式典挙行
- 2013(平成25)年8月 解体開始予定

皆さまの声

Voice

皆さまからお寄せいただきました話題や情報、ご意見などをご紹介します。

- 市に寄せられた県外からの寄附金はどのようなことに使われていますか。(宮守町達曾部 T.Fさん)
- 市への寄附金は、市民のほか市出身者や本市にゆかりのある方々など、県内外から多くのご厚意を頂いております。平成24年度は、寄附金総額33,580,606円(141件)のうち、23,831,309円(59件)が県外にお住まいの方からの寄附金となっております。お預かりしました寄附金は、寄附者のご意向に基づき、沿岸被災地への後方支援活動や花火まつりの運営費、高校・大学等の奨学資金など、市が実施する事業に活用させていただいております。また、ホームページでも紹介させていただいております。今後も全国の皆さまからのご厚意を、住みよいまちづくりに活用させていただきますのでご理解とご協力をよろしくお願いいたします。(市経営企画部)

消防救助技術県大会 優勝 堀切翔人消防士が



6月28日に開催された、第37回消防救助技術岩手県大会で、堀切翔人消防士がはしご登はんの部で優勝し、全国大会への出場が決まりました。堀切消防士は「日ごろの練習の成果を出せたと思います。全国大会では記録更新を狙い、身に付けた技術は職務においてもしっかりと生かしていきたい」と意気込んでいました。全国大会は8月22日、広島県で開催されます。